

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 17 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2016

課題番号：26300016

研究課題名(和文)カンパーニア州・ナポリに16世紀～20世紀に存在した宿泊施設・ホテル群について

研究課題名(英文)Hotels and accommodations in Naples and the Region of Campania, between the 16th and 20th Centuries

研究代表者

河村 英和 (Kawamura, Ewa)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・特任准教授

研究者番号：50649746

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：16世紀から20世紀までのあいだに、ナポリとカンパーニア州内の地域で開業した宿屋、ホテル、ペンション、部屋貸し業を網羅し、その歴史を集大成した。とくに重要なホテル群については、それぞれの盛衰期(当時のガイドブックなどから同定)、オーナーの変遷(ナポリ銀行古文書館の支払い記録などから同定)、宿泊者の残した印象記、建物(図面、古地図、風景絵画、古版画、古絵葉書などから)についても含めて、できうる限り詳細に記述した。

研究成果の概要(英文)：This research is about the history of hotels and accommodations in Naples and the Region of Campania, between the 16th and 20th Centuries. As for significant hotels, the Researcher described the history of each hotel in detail as far as possible, using the various editions of vintage guide books, travel writings (including individual letters, diaries and so on), and iconographic materials (architectural drawings, old maps, landscape paintings, engravings, postcards etc.) in that era and the fact of the change of hotel owners found in unpublished archive documents.

研究分野：観光史・都市史・建築史

キーワード：観光史 地域研究 建築史 都市史 イタリア ナポリ ホテル史 ホテル建築

1. 研究開始当初の背景

南イタリア最大の都市ナポリを擁するカンパーニア州には、ユネスコ世界遺産を含め、人気リゾート・観光地（ポンペイ、フレグレイ平野、ソレント、アマルフィ、イスキア、カプリなど）が多い。にもかかわらず、カンパーニア州とナポリの宿泊施設の史的研究は、研究代表者が2005年に行った、18世紀から20世紀初頭までにおけるカプリ島の全ホテル群史の先行研究を除いて、ほとんど行われて来なかった。ナポリは、世界的にも知名度の高い都市であり、都市史・地域研究のレベルだけではなく、世界史的な規模からも、政治、文化、芸術などの様々な観点から、かねてからナポリに関する様々な分野の書籍は数多く出版され、なかでも建築史や都市史に関する研究書はとりわけ多い。にもかかわらず、詳細なホテル建築史研究書にいたっては、ナポリに20世紀初頭に存在した1件のホテル Grand Eden Hotel (Luigi Ziviello 著、1992年) についてのたった1冊しかなかった。

2. 研究の目的

本研究の調査研究対象地であるナポリ（イタリア）は、国家統一前までは「ナポリ・両シチリア王国」の首都であり、パリとロンドンと肩を並べるほどの大都市の一つであった。ヨーロッパ大陸周遊旅行ランド・ツアーでの最終目的地は、ローマとともにナポリも重要視されていた。このようにナポリとその周辺は、外国人旅行者の人気訪問地としての歴史も長く、当然ながらそれに伴って宿泊施設（ホテル、ペンション、宿屋、部屋貸し業）について史的に集成・考察すべきことは多い。時代によって流行が変遷するホテルの屋号、建築様式、立地、規模、客層、経営者たちなど、その傾向は多彩に推移してゆき、観光資源の発生・発展と都市整備の歴史と連動しながら、旅行者向けの宿泊施設の歴史は変動してゆき、その史実をつぶさに記録してゆくことは、観光史という分野のなかでも重

要な位置を占めるはずだ。よって、ここに16世紀から20世紀前半までに開業した旅行者向けのすべての宿泊施設（ホテル、ペンション、宿屋、部屋貸し業）の存在とその経緯を明らかにし、ホテルの集中する地区の時代的な推移・建築様式、ホテルの栄枯盛衰・経営者など、広範囲に分析し、ナポリのホテル史研究の決定版とする。

3. 研究の方法

日本の大学で授業を担当していない期間中（夏・春休みなど）に、ナポリを拠点にし、イタリア各地の図書館、古文書館、個人コレクションを利用しながら、歴史的資料を収集する。合わせて現在もホテルとして使用されている建物、並びにホテルとしてかつて使用されていた建物（現在は、住宅や公共の施設など）の現場調査も行う。都市史や観光史と関連深い学会 - イタリア観光学会 (SISTUR)、イタリア都市史学会 (AISU)、イタリア産業遺産学会 (AIPAI)、欧州都市図像研究所 (CIRCE) など - があれば、出席して研究発表を行い、随時論文投稿しながら、ナポリ・フェデリコ2世大学の観光史・建築史研究者と交流し意見交換も行う。

本研究のモデルとして、スイスの美術・建築史家 Roland Flückiger-Seiler が、著した2巻本『1830-1920年代のスイスの観光とホテル建築』(*Hotel Träume zwischen Gletschern und Palmen, Schweizer Tourismus und Hotelbau 1830-1920*, Baden, 2000; *Hotel Paläste zwischen Traum und Wirklichkeit, Schweizer Tourismus und Hotelbau 1830-1920*, Baden, 2003) を参照した。前掲書のホテル史の時代区分は、スイスは観光立国としての歴史も浅いことと、建築史的な関心からとくに重要な「1830-1920年」に時代を絞っているが、イタリアに舞台を置き換えた拙ホテル史研究では、観光史的な側面を重視するため、旅行記が発生し宿屋の情報は散見できる16世紀まで遡る。そしてイタリア

では 18 世紀のグランド・ツアー最盛期、ホテル（貴族の館や修道院を転用した場合）が増加しはじめるため、本研究でメインとなる時代区分は「1750-1940 年」と広範になっている。

4. 研究成果

16 世紀から 1930 年代までのあいだに、ナポリ（イタリア）で開業した、すべての宿屋、ホテル、ペンション、部屋貸し業（以下、以上の各種宿泊施設を総括して「ホテル」と略して記述する）を網羅し、その歴史を集大成した。とくに重要なホテル群については、それぞれの盛衰期（当時のガイドブックなどから同定）、オーナーの変遷（ナポリ銀行古文書館の支払い記録などから同定）、宿泊者の残した印象記、建物（図面、古地図、古版画、古絵葉書などから）についても含めて、できる限り詳細に調べた。

ナポリのホテル史の概要を以下に記述する。

ホテルは時代の変遷とともに常に変化し続け、現存するものよりも、廃業したもの（建物は残って用途転用される場合や解体・改築される場合など）のほうが圧倒的に多く、ホテルが密集する「ホテル街」の形成も時代ごとに移り変わってゆく。17 世紀までは、港の近くで馬車の発着のある交通の中心が宿屋街であり、そこは狭い路地の中であったので、いわゆるナポリ湾を望む風光明媚な景色の見える立地ではなかった。建物も一般住宅と大差なく、屋号も看板で識別できるような動物などの具象物で命名されたタイプのものだった。

18 世紀後半になって初めて海に面した通りに景色が一望できる高級ホテル・クロチェレが開業し、近くにはベルヴェ（美しい眺め）という屋号のホテルも誕生した。一方で英国人貴族・富裕層に相応しいよう、英国風の屋号の高級ホテルも増加した。19 世紀初頭には

付近のヴィットリア広場に、さらなる高級ホテル・ヴィットリアが登場し、約半世紀近くの間、町を代表するホテルとして名を馳せた。しかし 1870 年代にその前面道路が埋め立てられ、さらに海に近い海浜通りがもう一本建設されるにあたり、ホテルの窓からの景観が損なわれたため、ホテル・クロチェレとともにヴィットリアも廃業した。一方その新しい海浜通りとなったパルテノベ通りが、町随一の高級ホテル街として今に至っている。

1880 年以降ナポリでもようやくグランドホテル建築が浸透し、屋号もそれに合わせた仰々しいものが増えてゆく。一方で、スイスの山岳地帯での結核の転地療養が注目されてきた 1880 年代以降、ナポリでも丘の上の高台の地区が、より「健康的」な場所と解釈され、スイス人によって経営される新たな高級ホテル街が形成され、とくに英国人に人気を博したが、そのほとんどは後年、結核が不治の病でなくなって閉業した。19 世紀末以降は、駅周辺に中級の商用旅行者向けのホテル街が形成された。20 世紀初頭に下町と丘を結ぶケーブルカーが開通すれば、丘の上のヴォメロ地区にペンション街が形成され、ファシズム期に、ナポリ=ポンペイを結ぶイタリア初の高速道路が開通したさいは、その入り口の近くに、フィアット自動車の修理工場と螺旋塔状の巨大駐車場と合体したホテルが建設された。このように、常に時代の変遷、流行の変化、交通の発展や社会的動向によって、ナポリの都市の発展とホテルの盛衰は連動していったのである。

そして本研究成果は、日本学術振興会科学研究費助成事業・研究成果公開促進費の学術図書（課題番号：17HP5104）によって、2017 年 11 月に、『Storia degli alberghi napoletani（ナポリ・ホテル群史）』という題名で、現地ナポリ（イタリア）の建築専門の出版社 CLEAN Edizioni から出版される予定となっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

Ewa KAWAMURA, Incanto del mare in tempesta e di rocce curiose: reminiscenze del sublime nel paesaggio naturalistico europeo nelle cartoline di inizio Novecento, Delli Aspetti de Paesi. Vecchi e nuovi Media per l'Immagine del Paesaggio, 査読有、1、2016、461-470
<http://www.eikonocity.it/2016/11/18/pdf-tomi-cirice-2016-delli-aspetti-de-paesi/>

Ewa KAWAMURA, L'iconografia nella produzione a stampa della Richter & C. per il settore turistico tra il 1900 e il 1930, Eikonocity、査読有、1、2016、147-160

<http://dx.doi.org/10.6092/2499-1422/3752>

Ewa KAWAMURA, L'inedito journal del viaggio in Italia negli anni 1838-1839 di Clara de Constant Rebecque, VisibileInvisibile: percepire la città tra descrizioni e omissioni, 査読有、1、2014、753-763

<http://www.scrimmedizioni.com/visibilei-nvisibile-percepire-la-citta-tra-descrizioni-e-omissioni/>

〔学会発表〕(計3件)

Ewa KAWAMURA, Masaniello, pescatore napoletano: icona simbolica del paesaggio della baia di Napoli tra l'Ottocento e il Novecento, 国際会議「La Baia di Napoli. Strategie integrate la conservazione e la fruizione del paesaggio culturale」, 2016年12月5日、ナポリ・フェデリコ2世大学、ナポリ(イタリア)

Ewa KAWAMURA, Il ruolo urbano degli alberghi-ristoranti in Italia tra Otto e

Novecento, イタリア都市史学会(AISU), 2015年9月4日、パドヴァ大学、パドヴァ(イタリア)

<http://www.storiaurbana.org/index.php/en/congressi-uk/9-congressi/682-il-cibo-e-la-citta-paper-food-and-the-city>

Ewa KAWAMURA, Il nuovo turismo culturale negli hotels, equivalenti a museo d'arte contemporane e lo sviluppo dei generi alberghieri, art-, design-, fashion-, haute (couture) hotel, イタリア観光学会(SISTUR), 2014年11月20日、ローマ・ヨーロッパ大学、ローマ(イタリア)

〔図書〕(計2件)

河村 英和、鹿島出版会、ナポリ建築王国—「悪魔の棲む天国」をつくった建築家たち、2015、257

Ewa KAWAMURA, CLEAN Edizioni, Storia degli alberghi napoletani, 2017, 240(11月刊行予定)

〔その他〕

ナポリ・フェデリコ2世大学など複数機関(いずれもイタリア)が主催した、ナポリ、ソレント、アマルフィの19世紀観光史に関する国際会議「Viaggi e soggiorni in Europa nel primo Ottocento Oltre Napoli, verso Amalfi e Sorrento」(2016年4月14-16日開催、於：アマルフィ、ソレント)での査読・審査委員を担当。

http://www.storia.unina.it/index.php?option=com_content&view=article&id=52:1604-16-viaggi-e-soggiorni-in-europa-nel-primo-ottocento-oltre-napoli-verso-amalfi-e-sorrento&catid=56&lang=it&Itemid=163

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河村 英和 (KAWAMURA, Ewa)

東京大学・大学院人文社会系研究科・特任准
教授

研究者番号： 5 0 6 4 9 7 4 6